

夢

追

い

人



(株)ウッドサークル社長
江頭修作さん



“ぶな”の天然材をFFC処理した、安心・安全の積み木



FFC素材に期待

大川の新しい家具のグループ「イムウッド」が立ち上がった。十五社の家具関連企業で構成されている。七月十一日の発表会には、約三〇〇人の関係者が集まった。NHKを始め、地元民放各社、スカパー、BSも取材にくるほどの注目を集めた。

なぜ、これほどの関心を集めたのだろうか。

それは、これらの企業が共通して使用する素材、FFC(フエラス・フェリック・クラロイド)資材が全国的に注目をされているからだ。

FFC素材は、「シックハウス症候群」を誘発しないばかりか、居住空間を「蘇生型空間」に転換させてしまう、「免疫製品」とされている。

このFFC素材を開発し、特許を持つ(株)ウッドサークル社長の江頭修作さんは、「この素材は、簡単に言うと、杉やナラなどの原木に二価鉄と三価鉄の混合溶液を注入して作ります。こうすると、木材の細胞の中の水分が活性化し、水の分子の持つ遠赤外線の放射

率が高まります。」という。九州芸術工科大学などの研究では、木材から放射される遠赤外線が室内の菌(MRSA、緑濃菌等)の増殖を抑制するだけでなく、人体の免疫性などの生理機能を向上させる効果が確かめられている。

江頭さんは平成十年に、このFFC材開発の為に、(株)ウッドサークルを発足させた。億単位の研究費を注ぎ込みながら、観葉植物の生産・販売をする赤塚植物園との共同開発を進めた。幾つかの大学や公的機関との連携も取った。こうして成果を生み、やがてFFC素材は、全国的に認知されるようになっていった。

現在では、大手の建材メーカー、大手ハウスメーカーとの取引ができています。といってもまだ拡大の余地はある。それで江頭さんは多忙だ。「月に十日ぐらいは説明会のため全国を飛び回ってますよ」と笑いながら話す。

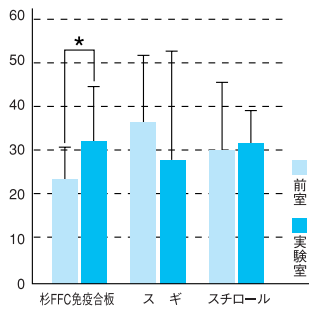
大手企業はこのFFC材の特許買い取りを何度も申し入れていたという。しかし、決し

イムウッド

(有)ヨコタウッドワーク
 (株)みやぎき木工
 (株)フレックス産業
 丸庄(株)
 (株)モーニン
 (株)早川木工
 (有)貞荊椅子製作所
 (株)ヒラシマ
 さんち家具
 (有)木下建具
 (有)イムクラフト
 (株)大新
 江頭木材(株)
 (株)酒見展業
 丹創社(株)
 FFCフアニチャープラン
 (株)ウッドサークル

《s-IgA濃度測定結果報告》

(平均値±標準偏差 *P<0.05)



FFCはスギに特殊加工を施したものであり、FFCは免疫系活動の指標であるs-IgA濃度を、前室と比較して有意に増加させた。

このことから、FFCは生体に何らかの刺激を与え、生体防御系、特に免疫系がストレスに対して反応していると考えられる。この作用により自律神経系(交感神経系)副腎髓質の活動が亢進されると、副腎髓質よりアドレナリン、ノルアドレナリンなどのカテコールアミンがリンパ球のα受容体もしくはβ受容体に作用し免疫系の活動を高める。

(国立大学との共同研究により抜粋)

前室—実験室で、各条件において被験者間で対応のある検定を行なったところ、FFCにおいて有意に実験室が高い値を示した。

天然銘木化粧合板

免疫合板



サクラ柾目



Wオーク柾目



セン柾目

江頭さんを始め、イムウッドの関係者は、FFCが人体の免疫を高めるように、家具産地の活性化にも大いに期待する。

秋桜(コスモス)



提供
 (有)ヨコタウッドワーク

て首を縦に振らなかった。なぜだろうか。
 「近年の大川家具産業は景気低迷や輸入家具に押され、率直に言ってもかなり追い込まれた状況にあります。その中でFFCが活性化の一助になればとの強い思いがありました。それで、FFCを使った大手建材メーカーの生産にあたっては、必須条件として必ず『大川市を生産基地』にすることを申し合わせ、実際そうして

くることができました。」と江頭さんは言う。そして、建材の分野だけでなく、家具産業にもFFCを活用するため、冒頭の「イムウッド」グループの結成を働きかけたのだ。

「シックハウス症候群」が話題に上る中、FFCを使った家具は、人と環境を向上させるという高付加価値を持っている。病院などでも安心して使用することができるよう。イムウッド参加企業は、今年度中に東京、大阪等で大規模な展示会を行う予定だ。インターネット通販も検討している。